

令和3年11月吉日
(2021年)

保護者のみなさまへ

吹田市立吹田東小学校
校長 三宅 友子

令和3年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

(1) 国語

《概要》

・各領域で全国値と比べて下回っている項目が多かった。

○「話すこと・聞くことについて」

・津田梅子を紹介する問題では選択式の5問は概ねできていた。ただし、資料を使うことを問う問題は、正答率がやや下がり課題が見られた。目的や意図に応じて取材内容を基にして自分の考えをまとめる記述式の問題では正答率が全国値をやや下回り課題が残る。

○「書くことについて」

・問題文に登場する丸山さんの目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えたり、文章を要約したりする設問では、全国平均を下回っていた。文の構成を考えたり、表を用いた目的を捉えたりする問題は、概ねできていた。一方で、事実と意見を区別して書く問題(記述式)において、問題の条件に沿った回答になっていない、または正しく要約できていない児童が多くみられた。

○「読むことについて」

・文章を読み、登場人物の心情を捉えたり、登場人物の心情について自分の考えをまとめたりする問題では全国平均と同じ正答率であった。間違いや無回答が多く見られた。

○「言語活動について」

・漢字や文法に関わる問題や主語と述語、修飾語、文法を問う問題については全国値を下回っていた。

《 国語科における成果と今後の指導改善点 》

- ・本校の児童の無回答を減らすために、できる問題、分かる問題から回答するように指導していく必要がある。自分の考えを要約して、相手に伝わるように書き表す力にも、まだまだ課題が残る。そのため、日々の授業で、話や文章の要約、要点を聞いてメモする、自分の考えを一定の長い文章(100文字程度)にまとめる等の時間を充実させていく必要がある。
- ・自分の考えを伝えようとする意欲はあるが、文章や問題内容を読み取る力と目的や意図に応じて書く力に課題があると考えられる。授業、朝の学習などで、読解問題や記述式の問題に取り組み、読む力・書く力をつけていけるよう指導の改善を行う必要がある。
- ・正誤について個人別に分析してみると、成績下位の児童は特に、国語科だけに限らず問題に取り組む姿勢ややりきる力に課題がある。読み取る力や要約して正しく文章に書き表す力を求められる設問を数多く間違っている傾向が見られた。また、問われていることを正しく捉えられていない様子も伺えた。学習進度が遅れがちであったり、理解度に課題が見られたりする児童に対するよりよい手だてを継続して研究していく必要がある。言葉の使い方では、プリント学習を用いて、意味調べも取り入れながら、反復練習をすることで言葉の理解を定着できるように指導を続ける。

(2)算 数

《概 要》

- ・図形での「知識・技能」領域に関する問題では、全国値より高かった。
- ・変化と関係の領域では、全国値より下回っていた。

○「数と計算」

- ・2つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する問題では全国よりやや高い正答率であった。
- ・示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断する問題については、全国とほぼ同じ正答率であった。
- ・商が1より小さくなる(整数)÷(整数)の場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し計算する問題では、正答率は全国を下回っていた。
- ・30mを1としたときに、12mが0.4に当たるわけを書く記述問題では、正答率が全国を下回りまた、無回答率も高い数値であった。

○「図形」

- ・直角三角形の面積や直角三角形を組み合わせた図形の面積についてわかること選ぶ問題では全国値を上回っている。

○「測定」

- ・二つのコースの道のりの差の求め方と答えを記述する問題では全国値を上回っている。
- ・午後1時35分から50分後の時刻を求める問題では、全国値と概ね同じ数値で高い正答率となっていた。

○「変化と関係」

- ・全ての項目で全国値よりやや下回っている。全国と比べ無回答が多く、選択式の問題に対しても同様であった。特に、速さを求める除法の式と商の意味の理解が低かった。

○「データの活用」

- ・棒グラフから項目間の関係を読み取る問題では、全国よりもやや上回っていた。
- ・データを二次元の表に分類整理する問題では、全国を下回っていた。
- ・棒グラフから読み取ったことを記述したり判断したりする問題では、やや全国を下回っていた。
- ・全体的に無回答が多かった。

《 今後の指導改善点 》

- ・全体的に記述問題の正答率が低く、無回答率も高くなる傾向が見られるため、日頃から自分の考えを文章や図等を用い、わかりやすく説明する時間を確保し、記述して表す力や意欲を高めていく
- ・順序立てて説明する力をつけるために箇条書きや番号をつけて説明することを日頃の授業から取り組んでいく。
- ・友達の説明を聞き、わかりやすかった工夫を取り入れ、次回に活かせるよう、伝え合い、学びあう時間を確保していく。また、ホワイトボード等を活用して、どのようにすればわかりやすく書き表せるか、伝えることができるかを相談する等、協働して学ぶ機会を確保していく。

(3) 英語 ※質問紙調査のみ

- ・外国語に関しては、「学校の授業以外で英語を使う機会がありますか」の項目で、5割以上が当てはまると回答した。これは全国値を上回っていた。
- ・「英語の勉強は好きですか」の項目では、肯定的な回答が5割をやや下回り全国平均より低かった。

(4) 新型コロナウイルス感染症が児童に与えた影響について

- ・「休校の期間、勉強に不安を感じていたか」という項目は、感じていたという回答が全国値より低かった。
- ・「休校の期間、規則正しい生活を送っていたか」という項目は、肯定的な回答が5割で全国値を下回った。

【学習環境・生活環境について】

- ・「自分には、よいところがある」と思っている肯定的意見の割合は、全国値の半分という結果である。自己肯定感の低さが顕著である。
→6年生だけでなく、学校全体の課題だと感じる。教師や保護者からの励まし、友達同士での認め合い等、すぐにできる子どもたちの自信につながるような取り組みが急務である。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と思っている割合は、全国、大阪値より大きく下回っている。
→今後も学校全体として「いじめはどんなことがあってもいけないことだ」という姿勢を決して曲げず、いじめ防止対策をすすめたい。
- ・「学校に行くのは楽しいと思うか」の項目では、全国値の半分という結果である。「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の項目でも全国値を大きく下回っている。
→友達と学びあうこと、一緒に過ごすことの楽しさや充実感を感じられる取り組みを継続していく。
- ・「学校の授業時間以外に、(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間読書をしているか」の項目で「2時間以上」と回答した割合と「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか」(2時間以上勉強している割合)は全国値を大きく上回っている。
→全国との比較では数値が高いが、学年で見た場合は時間配分に大きな差があり、取り組んでいる子にない子に分かれる結果となっている。家庭と連携し改善していく必要がある。
- ・「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っているか」で「きちんと守れてる」との回答の割合は全国値より低く、「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、ゲーム(携帯電話、スマートフォンなどのゲームも含む)をするか」で、「4時間以上」と答えた割合は全国値より高くなっており、子どもたちにとってゲームやスマートフォンなどに接する時間

が長いことが伺える。

→「早寝、早起き、朝ごはん」をはじめとした規則正しい生活は子どもたちの健やかな成長にはかかせないものである。生活リズムを整えるため、適切なデジタル環境との付き合いのため、保護者に子どもたちへの声かけを今後とも協力願うようにする。

3 今後の取り組み

本校では学力向上を重点的な課題と捉え、新学習指導要領が示す主体的・対話的で深い学びを授業改善のための大切な視点として研究に取り組んでいます。今年度は「子どもたちが興味をもって、主体的に学ぶ力を育てる～できた！わかった！を味わえる子どもを目指して～」をテーマに算数科の授業研究を進め、指導力の向上に取り組んでいます。児童が主体的に取り組めるよう学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容に気づく場面、ペア交流や班活動の対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面を大切に、「できた」「そういうことか」といった学びの実感を持たせ、新たな問い（課題）に立ち向かう学習の過程を繰り返すことで子どもたちの資質や能力を伸ばしていきます。また、子どもたちが情報を活用する場・発信する機会も増えていることや GIGA スクール構想で一人一台タブレット端末が整備されたので、デジタルシティズンシップ教育と並行して、各教科等の学習課題の解決のために、コンピューターを活用して身近な問題を解決できる力を育ててまいります。

生活環境や学習習慣等の結果を踏まえ、人権教育のさらなる取り組みを推進し、道徳の授業やいじめ予防授業を通して、児童の自己肯定感や自尊感情を高めてまいりたいと思います。保護者の皆さまにおかれましては、児童の自立と幅広い学習の機会をつくるため、ご協力をお願いいたします。